

# 「BELIEVE」

BELIEVE  
2018  
冬号  
VOL.63

## 特集 当院の感染管理について



mai 「はなざかり」 ・制作年/2016 ・素材/クレヨン、アクリル、紙  
〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableartcom.jp>〉

### シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔⑥③ 第一泌尿器科部長 大西 裕之

- 食だより「れんこんまんじゅう」／お薬ミニ知識「下剤の種類について」 ●『がんサポートチーム』からのお知らせ／かかりつけ医をもちましよう
- 大阪赤十字病院の国際活動 2016-2017／お仕事紹介

#### 大阪赤十字病院の理念

わたしたちは  
人道・博愛の赤十字精神に基づき  
すべての人の尊厳をまもり  
心のかよう高度の医療をめざします

#### 患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



# 当院の感染管理について



▲当院のICTメンバーと近隣医療機関の職員の方々。カンファレンスや院内ラウンドにも参加していただき、連携して感染管理に努めています。

## 当院における感染管理の取り組みについて

感染管理に関する院内組織を作り、病院全体で取り組んでいます。感染管理室を設置し、感染制御チーム『ICT』が実働部隊として活動しています。ICTメンバーは医師3名・看護師2名・薬剤師3名・臨床検査技師3名・事務職員2名の計13名で、院内感染の監視活動、感染症発生時の対応、感染防止対策の評価、マニュアル作成および修正、職員教育、抗菌薬の適正使用、相談業務、ICTラウンド(回診)などを組織横断的に行っています。各部署には感染管理リンクスタッフを配置し、ICTと連携をとりながら各部署での感染管理を行う

病院にはさまざまな病気の患者さんが来院され、なかには感染症や病気によりさまざまな菌を持った患者さんいらっしゃいます。治療のため病院にいられたにもかかわらず、新たに感染症にかかるということは、患者さんの苦痛をさらに増大させてしまうこととなります。そこで、感染症をできるだけ他の人につたさないための対策を行うこと(感染管理)が非常に重要となります。今号では、当院における感染管理の取り組みと感染症から身を守るための感染予防対策について紹介します。

ています。また、近隣病院と連携し、地域での感染管理にも取り組んでいます。

### ◆ ICT各職種の役割・活動紹介 ◆

#### 医師

ICD (Infection Control Doctor) 2名、小児科医1名で構成され、感染管理の指導的役割を担っています。週1回の定期的な病院内の回診(ラウンド)、院内感染発生の実態調査(サーベイランス)、院内感染多発(アウトブレイク)時の対応などに加え、各感染症の治療や



▲他職種でラウンドし、さまざまな目線で確認します。

▲院内ラウンドで使用するチェックシート・評価項目が細かく分かれています。



▲チェックリストに沿って、感染に関わる場所(病棟内の水回りなど)をチェックします。



▲近隣の医療機関とのカンファレンス。

抗菌薬の適正使用に関する相談(コンサルテーション)・評価・指導を行っています。また、さまざまな手順書(マニュアル)の作成や情報の発信、職員への教育・啓発など、病院内各部門間で

横断的に動き、院内感染対策が円滑に行われるように調整をしています。

#### 看護師

感染管理認定

看護師2名で、患者さんはもちろん、職員や外部委託業者、ボランティアさんなど、病院内のすべての人を感染から守るために、ICTの活動全般に関与しています。病院内で感染対策が不要な部署はありませんので、各部署各職種とともに感染管理に取り組むための調整も重要



な役割です。また、患者さんのケアに関することだけでなく、病院環境の整備や器材の洗浄、消毒に関することなどにも力を入れて活動しています。

#### 薬剤師

薬剤師3名(感染制御認定薬剤師2名、うち1名は抗菌化学療法認定薬剤師の資格も取得しています)で活動しています。

薬剤師の仕事のイメージとして、お薬の調剤や説明といったものを思い浮かべる方も多いかと思いますが、ICTでの薬剤師の役割は、細菌ウイルス・真菌(カビの仲間)などによる感染症を治療するお薬が、より適切に使用されるよう活動することです。お薬の選択量がその患者さんにとって適切かを確認したり、院内での感染症治療薬の使用状況をチェックしたり、お薬に抵抗性を持つ細菌などを作り出さないような活動を行っています。

#### 臨床検査技師

感染制御認定臨床微生物検査技師3名で活動しています。

臨床検査技師が行う業務では、採血や超音波検査などはよく知られていますが、感染管理という直接患者さんと接する機会がない業務も存在します。

臨床検査技師が関わる感染管理の内容は、院内感染予防・防止、耐性菌の抑制など、微生物学的検査からの情報発信などがあげられます。疫学的統計や感染症を引き起こす原因菌の治療薬の動向などを調査し、その結果をもとに感染対策・予防を効果的に実行できるように、サポートしています。

毎週開催しているICT会議、月に1回開催している院内感染防止委員会の幹事として、会場設定や議事録を作成しています。医師・看護師・コメディカルとともにICTラウンドにも参加しています。

また、病院と地域の保健所との橋渡しの役割を担い、感染症発生届の提出や、感染症患者に対して地域の保健所が調査で来院する際に、その立会いなどを行っています。

◆患者さんも

感染管理の担い手です◆

院内の感染管理には、患者さんやご来院の皆さまにご協力いただくことも重要なポイントとなります。たとえば「頻繁に咳の出るとき、

手洗い、チェックポイント



次の項目に、チェック☑を入れてね。

- 必要なタイミングで手を洗っている。.....
- 食事の前
- トイレ使用后
- 目に見えて手が汚れているとき

- 正しい方法で手を洗っている。.....

1 まず手指を流水でぬらす。	2 石けん液を適量手に取り出す。	3 手の平と手の平を擦り合わせよく泡立てる。
4 手の甲をもう片方の手の平でもみ洗う(両手)。	5 指を組んで両手の指の間をもみ洗う。	6 親指をもう片方の手で包みもみ洗う(両手)。
7 指先をもう片方の手の平でもみ洗う(両手)。	8 両手首まで丁寧に洗う。	9 流水でよくすすいだ後、きれいなタオルで拭き、しっかり乾燥させる。

- 15秒以上かけて、丁寧に洗っている。.....

インフルエンザはしか水ぼうそうなど人にとって

る病気が考えられるときは、マスクをして受診する「そのような症状があるときは受診前にお問い合せいただくか、早めに申し出る」「食事の前、トイレの後に手を洗う」など、日常生活のなかでは当然のようなことですが、このようなことが病院においても基本となります。入院中には、部屋の移動をお願いしたり、職員がマスク・手袋などを着用して対応する場合がありますが、感染管理において重要なことであるため、ぜひご協力をお願いいたします。

感染症から身を守るための感染予防対策について

手洗い

感染予防対策で最も重要なものは、皆さまが

マスクの着け方・外し方&チェックポイント

着け方

- ワイヤー(ノーズピース)部分に折り目をつける。
- ゴムひもを耳にかける。
- ワイヤーを顔の形に合わせる。
- ブリーツをあごの下まで伸ばし、鼻と口を覆う。

外し方

POINT ・マスクの表面に触れないように外して捨てる。  
・マスクを外した後、手洗いを行う。  
・衛生的に使用するため、適時交換する。

- 表面に触れないようにゴムひもを外す。
- 表面に触れないようにゴムひもを持って捨てる。

マスク

日常生活のなかで毎日行っている「手洗い」です。より効果的な「手洗い」であるためには、①いつ洗うか? ②どのように洗うか? ③どれだけ洗うか? がポイントとなります。左上図で自身の「手洗い」をチェックしてみましょう。

マスクには、①病原体を含む咳やくしゃみの飛沫(シブキ、ツバ)の拡散を防ぐ②飛沫から鼻・口の粘膜を守る、という2つの効果があります。そして、正しく着用することで、マスクの効果を高めることができます(ただし、マスク着用だけで感染症は予防できないのでご注意ください)。

●マスク着用のポイント

チェック☑を入れてね。▼

チェックポイント	ワンポイントアドバイス	チェック欄
マスクは顔に合ったサイズである。	サイズが大きすぎると顔にフィットせず、小さすぎると鼻口をしっかりと覆えない。	
マスクの上下・裏表を確認している。	ワイヤー部分が上になる。裏表は商品の説明書きで確認する。	
鼻に当たる部分のワイヤーがフィットしている。	着用前、鼻にフィットしやすいように少し形をつける。	
鼻・口・あごを覆っている。	鼻と口をしっかりと覆えるように、あごの下までマスクのブリーツを伸ばす。	
顔とマスクの間に隙間ができないようフィットさせている。	マスクの周囲がなるべく顔に沿うように整える。マスクが大きい場合は耳ひもをくくって短くするか、小さいサイズのマスクを準備する。	

# 最新の医療機器に触れつつ、外科医として熟練の技も大切に伝え、後進の医師が活躍できる力をつけてあげたい。

## 第二泌尿器科部長 大西 裕之

**泌尿器科は30年の間に激変。最先端の機械で治療も行うように。**

医師になって30年目にあたる平成29年に、第二泌尿器科の部長に就任。好きな言葉は、「超ポジティブ思考」。しかし大西医師の本質は、「人見知りもし、人前が出るタイプではない」のどか。なぜ、好きな言葉に？と聞くと、くよくよ考えなくても仕方がない、なんとかなる、と、患者さんを支えてきた姿を、『超ポジティブ思考だ』と看護師がかけた言葉に納得したのだそう。

泌尿器科は誰もが受診する科ではないが、この30年で泌尿器科の医療は激変したという。「20年ほど前までは外来の診療時間も長くない、内視鏡や開腹による手術数も多くはなかったです。そこに

腹腔鏡手術が導入され、病気を見つめる診断技術も上がっていった。患者数も手術数も増えていきましたね。また、泌尿器科の前立腺がん、腎がんの手術に限り、手術支援ロボット(d Vinci)を保険内診療で行うことが認められています。最新技術を活用するチャンスに恵まれるなんて思ってもみませんでした。が、今ではこの科を選んでよかったと思います。」

**訪れた温泉は100湯以上！休日には温泉にゆっくり浸かりたい。**

幼い頃は、化学教師だった父の影響を受け、工作キットでラジオやアンブを作るのが好きで、電子工学の世界に憧れていた大西医師。「大西も工学系と考えていましたが、医学部に通う姉から『ここまで社会が高度成長して、この先、工学系は厳しくなってくるのでは』とのアドバイスもあり、医学部を選びました。大学生活は九州で、山登りや温泉の魅力に満喫しました。」

その経験からか、理想の休日はのんびり温泉に浸かること。「大学では長崎、医師になつて静岡と、温泉の多

い地域で生活してきて、行った温泉は100湯を超えました。まだ行っていない温泉や、昔に訪ねた温泉にも行きたいですね。」



大西医師が学生時代に楽しんだ山登り。九州から足を延ばし、長野・常念岳へ。頂上達成での一枚。

当院に赴任して1年足らずだが、大西医師は自身の役割をこのようにとらえている。「一番は後進の医師たちに一生懸命仕事をしてもらえるよう、育てていくことです。当院は歴史もあり、症例も多い分、治療の考え方や手術のやり方が、医師それぞれにあります。機械の使い方をはじめ、その場で判断できる力を伝えるときに、まずは若手が迷わないように大事な点を整えて、指導していきたいですね。」

患者数が増加するなかで、どのように診療を行っていくか、また高性能の機械を使う手術と、自分の手で直接行う手術を平行して、医療レベルをどう高めていくか、大西医師には課題が山積みだが、これまでを支えてきた経験と超ポジティブ思考で乗り越えていくのだろう。

京都府生まれ。長崎大学医学部卒業後、京都大学医学部附属病院泌尿器科を経て、奈良、静岡、滋賀の病院にて、泌尿器科部長、医長を務める。平成29年4月に当院の第一泌尿器科部長に就任。日々の診療・手術とともに、後進の医師の教育に力を注いでいる。

### 看護師レポート 63 SATOKO TAKEMOTO

11月3日大阪府生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業後、当院にて消化器内科・外科、循環器、泌尿器科の病棟看護師、係長を経験。平成18年看護師長に。平成23年に救命救急センターの看護師長に就任し、医師・看護師・各スタッフと連携した救命救急センター運営を行っている。



#### ●看護師長 竹本さと子

救命救急センターの看護師長として、患者さんを看護する看護師のサポートや、患者さんのご家族の対応など、主に現場スタッフの後方支援にあたっています。

### 限られた時間で手厚いケアが提供できる、そんな看護師が育つ環境をつくりたい。

看護師の仕事を選んだのは、中学生の頃に読んだ本で、生死にかかわる現場に興味を持ったのがきっかけですね。それにじつとすることが苦手なので、変化が求められるこの仕事は自分に合っていると思います。

救命救急センターでは、患者さんの命を助けると同時に、生活の立て直しも重要だとしています。特に高齢の方、独居の患者さんは、病気で生活が立ちいかずに倒れる人が多く、病気を治しても、健康を維持する生活が不安定だと、また病気になってしまいます。その繰り返しにならないように、救急搬送をきっかけに治療をし、社会支援を導入して問題を解決していきます。その場での判断や調整にスピードが求められますし、社会との接点を肌で感じる現場だと思います。



新酒の完成の印「杉玉」を吊るした竹本さんお気に入り「木下酒造玉川」の蔵元(京都府)を訪ねて。

休日は主人と美味しいものを食べに行ったり、日本酒を飲みに行ったりしています。酒蔵を訪ね、お酒を造る様子を見学するのが好きで、日本酒ファンを増やそうと、お土産に気に入ったお酒を配ったりもします。

救命救急センターでは、限られた時間のなかで、いろいろな問題が起こります。そこで予後が決まることもあるため、患者さんには可能な限り丁寧な看護をしたいですね。丁寧に、スムーズに、苦痛のない看護を提供していくためにも、自分を含め、スタッフが働きやすいように、スタッフ一人ひとりの仕事をよく見て、感じたことを伝えていく努力が必要だと思っています。楽しく働ける明るい職場にして、看護スタッフをまとめてくれるリーダーを育てていきたいです。



# 食だより

栄養管理課 管理栄養士 山口翔平

## れんこんまんじゅう

れんこんは秋から冬にかけて旬を迎える根菜で、ビタミンCやカリウムを多く含んでおり、煮物、酢の物、炒めもの、天ぷらなどいろいろな料理に使われます。今回は、使う材料も少なく、簡単にできるもちもちのれんこんまんじゅうを紹介いたします。



ちなみにれんこんですが、正月のおせち料理に使われることもあります。穴が開いているため、先を見通すことができるという由来があるそうです。



●栄養成分(6個分)／エネルギー：733kcal、たんぱく質：9.7g、脂質：40.1g、炭水化物：78.9g



### 〈材料〉(6個分)

- れんこん……………約400g
- 片栗粉……………小さじ2
- 塩……………小さじ1
- 枝豆……………約20粒(お好きな量で)
- 油……………大さじ3
- 出汁……………200ml
- 醤油……………大さじ2
- みりん……………大さじ2
- 水溶き片栗粉(とろみ用)……………適量
- ゆず……………適量

### 作り方

- れんこんの皮をむき、50gは1cmの角切りにする。残りのれんこんは、すりおろす。
- POINT** “しゃきしゃき、と”もちもち、の違う食感が出ます。
- すりおろしたれんこんの中に、角切りのれんこん、枝豆、片栗粉、塩を入れて混ぜる。
- ②を6等分にし、それぞれをラップにくるみ、電子レンジで500Wで2分加熱する。火傷に注意しながらラップを外す。
- 加熱したフライパンに油を入れ、焦げ目がつくように両面焼く。
- POINT** 少し焦げ目があるほうが食感が出ます。油で揚げるとより全体に食感がつき、美味しくでき上がります。
- 出汁、醤油、みりんを鍋に入れ火にかける。沸騰したら水溶き片栗粉を入れ、とろみをつける。
- 焦げ目のついたれんこんまんじゅうを盛り付けて、あんをかける。仕上げに、千切りにしたゆずの皮をのせて完成です。



# お薬ニ知識

薬剤部 薬剤師 山地 優依子



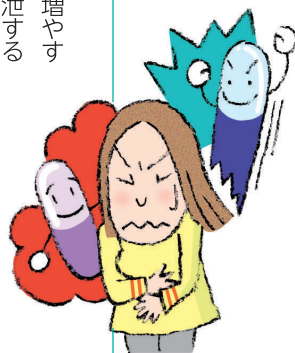
## 下剤の種類について

平成28年に厚生労働省が発表した、国民生活基礎調査の概要によると、日本人の便秘症の割合は人口千人あたり男性24.5人、女性45.7人と報告されています。この数字を見ると少ないように感じますが、日常的に便秘に悩んでいる方、また下剤を服用されている方は、多いのではないのでしょうか。今回は、下剤の種類についてお話したいと思います。

下剤は、大きく、非刺激性下剤と刺激性下剤に分けられます。

### 非刺激性下剤

便の元になる腸内内容を軟らかくしたり、量を増やすことで排泄を容易にする。高齢の方や産後で排泄するための筋力が低下している場合や、痔疾患の方に効果的。習慣性が少ない。  
(例) 酸化マグネシウム製剤 など



### 刺激性下剤

腸の蠕動運動を亢進こうしんさせることで、排泄を促す。非刺激性下剤が無効の場合、長期臥床や便意をがまんする習慣によって、便反射が低下している場合に効果的。センナ、ダイオウを含むものは、尿が赤色を呈する。

(例) センナ含有製剤、センノシド含有製剤、ダイオウ含有製剤、ピコスルファートナトリウム水和物含有製剤 など

※下剤には分類されませんが、腸蠕動運動亢進作用を持つことから、モサプリドやメトクロプラミドが使われることがあります。

一般的に、非刺激性下剤から飲み始め、効果が無い場合に刺激性下剤を加えます。長期間同じ薬剤を使用すると習慣化してしまつたため、お薬の種類を変えたり、作用の異なるお薬を併用したりします。また、便秘の種類に応じて、下剤以外のお薬を併用することがあります。ストレスなどで、大腸の緊張が高まった結果として起こる痙攣性便秘には、非刺激性下剤に加え、胃腸機能調整薬や、自律神経調整薬、抗不安薬などを併用することもあります。

右記の下剤は、医療機関を受診しなくても、ドラッグストアや町の薬局で手軽に購入することができます。しかし、便秘症状の改善のために重要なことは、まず生活習慣を改善し、便秘の原因を取り除くことです。下剤のみを漫然と使用することは、下剤の習慣化や副作用につながります。食事内容の見直しや適度な運動、ストレス解消、便意をがまんする習慣をなくすなどの便秘対策を行ったうえで、医師・薬剤師登録販売員などに相談し、症状に応じた適切な下剤を使うことが重要です。

## 看護職のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修を開催して (ELNEC-Jコアカリキュラム)

がん看護専門看護師 小木曾 照子

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

この研修は、『がんサポートチーム』を主催しました。この研修は、痛みやさまざまな症状を緩和する方法、高齢者のケア、死別や喪失に伴う悲しみを経験している方々へのケアなどの

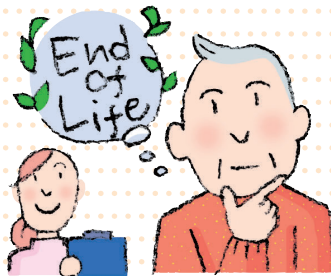


『エンド・オブ・ライフ・ケア』という言葉聞き慣れない方も多いと思います。これは、病いや老いなどにより人が人生を終える時期に必要なとされるケアのことで、ライフ(人生・生活)に焦点を当て、QOL(生活の質)を最大限に保ち、その人にとってよい死を迎えられるように支援することです。死を予測させるような病気の診断を受けたときや、加齢による身体・精神の衰えを感じたときなど、「当たり前」の日常が脅かされ、暮らし方や生き方を変えざるをえない状況に遭遇するときに提供されるケアです。私たち医療者は患者さん、ご家族にとってよりよい人生を送れるよう、さまざまな研修に取り組んでおり、その一環として当院で平成29年11月3日～4日の2日間、『看護職のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修：ELNEC-J(エルネック)コアカリキュラム』を開催しました。

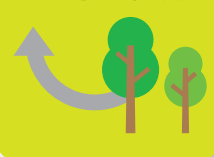


▲本研修の様子

講義があり、実際の看護につなげる事ができる内容になっています。本研修の受講者は、エンド・オブ・ライフ・ケアに関心の高い院内外の看護師36名で、熱心に意見交換を行うなど積極的に参加し、学びを深めていきました。今後、日本が高齢多死社会を迎えるなかで、患者さん、そのご家族、医療者の誰もが「生と死」について考え、「いかに生きたいか」を言葉にして身近な他者に伝えていくことが重要となります。それは、現在の日本の文化的背景において、決して容易ではないかもしれませんが、当院の看護師を含め、日本全国でELNEC-Jコアカリキュラムを修了した看護師は23,095人(平成29年4月現在)にのびります。エンド・オブ・ライフの時期に限らず、「どのように過ごしたらよいのか?」「どのような悩みや不安を抱いた場合は、まず身近な看護師や医療者にご自身の意向をお話いただければと思います。そして、「よりよい生き方」をともに考え、納得のいく生き方について相談していきましょう。



### 登録医紹介



## 「かかりつけ医」をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。

### かかりつけ医

日ごろの健康管理  
専門的な治療が  
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

### 大阪赤十字病院

高度医療・専門医療  
症状が安定したら再び  
「かかりつけ医」へ

## 医療法人 たかせ皮膚科

- 院長/高瀬 早和子
- 診療科/皮膚科・アレルギー科
- 住所/大阪市天王寺区上汐4-5-30
- 電話/06-6770-2008
- 診療時間

外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(9:30~12:30)	○	○	△	○	○	○	△
午後(16:00~18:30)	○	○	△	○	○	○	△

※月・火・金14:00~15:30、木午後は、手術・レーザーなどを行っています。  
※水・第2,4,5土・祝日は休診



### 特長

お子さまから高齢の方まで幅広い皮膚疾患全般を治療しています。かゆみ、にきび、アレルギー疾患、感染症はもとより皮膚腫瘍摘出、光線療法にも対応しています。また、身近な美容皮膚科としてシミのレーザー治療、フォトフェイシャル、トリチノイン療法、ケミカルピーリング、爪ワイヤー法なども取り入れています。

### 地域の皆さまへ

出産を機に大阪赤十字病院に赴任し、皆さまのご協力のおかげで開業にいたり早12年となりました。まだまだ勉強不足を感じながらも日々努力を続けています。今後も気軽に相談できる皮膚科を心がけ、スタッフ一同で地域医療に邁進してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

## 医療法人 協同診療所

- 院長/稲次 征人
- 診療科/内科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・外科・肛門外科・リハビリテーション科・放射線科・神経内科
- 住所/大阪市生野区小路東4-6-27
- 電話/06-6752-5075
- 往診/有 ● 訪問診療/有 ● リハビリテーション/有
- 診療時間

外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(9:00~12:00)	○	○	○	○	○	○	△
午後(17:00~19:30)	○	○	○	△	○	○	△

※日・祝日は休診



他に医師4名、看護師長含め11名の従業員あり。

### 特長

整形外科を診る稲次征人、内科・神経内科・消化器科・訪問診療・認知症診療を診る稲次洋平、大腸肛門疾患を診る稲次直樹、脳神経外科の塚本医師と他4名の医師など分野の違うことは相談しながら検査や治療を考慮していきます。町の医者として患者さんとのかわりを強く持って診療をしています。検査できる項目:血液検査・心電図・レントゲン検査・骨塩検査・腹部エコー・頸動脈エコー・上部内視鏡検査(経鼻)・下部内視鏡検査・小外科手術・痔の手術・リハビリテーション

### 地域の皆さまへ

先代が大阪赤十字病院に勤務し協同診療所を開院して78年、稲次征人は大阪赤十字病院に22年在籍し、現在の場所へ移転し31年目になります。『地域に根づいたやさしい医療を提供できるように』とこれからも職員一同がんばる所存です。これからも大阪赤十字病院や地域の医療機関と連携し医療サポートをしていきますのでよろしくお願いいたします。

# 大阪赤十字病院の国際活動 2016・2017

国際医療救援部 部長 中出 雅治

国際赤十字の活動の一環として、国内外での自然災害や紛争地域へ当院から多くの職員を派遣しています。  
2016年から2017年にかけての当院職員の海外活動を紹介します。

## ●フィリピン中部台風復興支援 フィリピン・ボゴ

2013年11月にフィリピンを直撃した台風ハイアンでは、当院からも多くの職員を緊急救援で派遣しましたが、その後の復興支援事業として、保健教育事業や仮設住宅建設などを継続して行っています。2016年10月から12月まで、復興支援事業の運営の一端を担うため、当院の事務職員が本事業2度目の派遣として、2カ月間活動しました。



## ●南スーダン紛争犠牲者救援 南スーダン・ジュバ

2011年の独立後も武力衝突が続く南スーダンでは、国際赤十字が紛争犠牲者のための医療支援を継続しています。2017年3月から1年間の予定で、当院から看護師をヘッドナースとして派遣しており、病棟管理業務や赤十字の海外スタッフの調整を行っています。



## ●イラク紛争犠牲者救援 イラク・アルビル/モスル

武力紛争が続くイラク共和国では、銃撃や爆弾、地雷の爆発により負傷した兵士や市民が病院に運ばれてきます。国際赤十字は2016年10月以降、モスル近隣の病院を拠点とした医療支援を拡大し、当院からも医師1名を2017年2月から3月、8月から10月の2回にわたり派遣しました。

## ●中東地域紛争犠牲者支援 ヨルダン・アンマン

シリアの隣国であるヨルダンでは、65万人のシリア難民を受け入れています(2017年9月現在、登録難民)。難民の多くは厳しい生活水準のなかで市街地に暮らしており、国際赤十字ではシリア難民・ヨルダン人を対象とした「地域住民参加型保健事業」を実施し、双方の保健衛生の向上に取り組んでいます。当院では、2017年4月から10月からのそれぞれ半年間、看護師を1名ずつ同事業に派遣しています。



## ●バングラデシュ南部避難民救援 バングラデシュ・コックスバザール

バングラデシュでは2017年8月25日以降、隣国ミャンマーからの避難民が62万人以上にのぼり(2017年11月25日現在、国連発表)、現在も水や食糧、居住地が不足し、医療機関や公的サービスは逼迫した状態が続いています。日本赤十字社は、2017年9月から医療チームを派遣し、地元の赤十字社と協働でクリニックを設営するとともに巡回診療やこころのケアを継続しています。当院からもこれまで医師、看護師、薬剤師、事務職員、技術職員の計12名を同国に派遣しています。



国際医療救援、の活動をフェイスブックで発信しています。

国際医療救援部の公式フェイスブックで国内救護、国際活動の情報発信をしています。災害訓練や災害の様子など、日々の当院の災害対応や国際活動に関する情報を、写真や動画とともにアップしていますのでご覧ください。皆さまからの「いいね!」のフックをお待ちしています。

<https://www.facebook.com/大阪赤十字病院国際医療救援部-355328871229152/>



### ◆皆さまからのご意見より◆

**A** 平成29年10月よりATMが当院2階ファミリーマート内(入口右手)に設置されました。  
24時間利用できますので、時間外や休日などでご入用の際はご利用ください。



▲当院正面には警備室もあります。救急車の誘導は1日平均25台! 病院の入口の安全も守っています。



**警備員さんに意気込みを聞いてみました!**

皆さまにご協力いただき、業務ができておりますので、至らない点はあるかと思いますが、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。  
「見、目立ちにくいお仕事が多いかもしれませんが、警備員さんは日々の安全が守られ、患者さんやご来院の方々に安心して当院を受診していただけるよう、奮闘しています。気分が悪くなったり、お困りことがあれば、警備員にお声かけください。」



**実はこんなこともしています!**

患者さんとかかわりのあるお仕事も多く、駐車割引の対応や落し物の管理も防災センターで行っています。院内で紛失があった場合は北玄関防災センターまでお問い合わせください。また、エスカレーター・エレベーターでの介助や案内、外来のトイレで緊急呼び出しボタンが発報された際も速やかに警備員が駆け付けます。



**警備のキホン!**

救急車の誘導、駐車場の出入口管理をはじめ、館内(病棟)を巡回し、火災や盗難、不正行為の警戒・防止に務めています。防災センターでは防犯カメラによる敷地内の監視、北玄関での受付と出入管理、火災警報盤監視を行います。



▲院内の安全を守る警備員さんたち。

日赤公式キャラクター「ハートラちゃん」



## 大阪赤十字病院 お仕事紹介

当院では医師をはじめたくさんの職員がいますが、皆さまにあまり知られていない仕事をしている職員もいます。そのなかで、意外と患者さんとかかわりが多くて身近な存在なのが、警備員さんです。  
今号はそんな警備員さんのお仕事を紹介します。

●当院では、正面玄関西側にある警備室と北玄関にある防災センターの2カ所で警備を行っています。

## News 「ロボット支援下手術(下部消化管)の症例見学施設(Mentor Site)」に認定されました

当院消化器外科が、「ロボット支援下手術(下部消化管)の症例見学施設(Mentor Site)」として認定されました。症例見学施設責任者は野村明成消化器外科部副部長です。

Mentor Siteは、ロボット支援下手術をはじめの外科医が指導者の手術を見学することができる施設です。Mentor Siteには、ロボット支援下手術の豊富な経験と卓越した技術をもつ指導者が従事しており、世界基準に見合った施設です。

ロボット支援下手術の執刀ライセンスを取得するためには、Mentor Siteでの手術見学が義務づけられており、下部消化管(主に直腸がん)に対するロボット支援下手術のMentor Siteは国内で7施設です。



消化器外科部副部長  
野村 明成



ペイジェントカート  
(ロボット機器と接続)



3Dフルハイビジョン内視鏡  
高精細な3次元視野  
意のままに制御可能

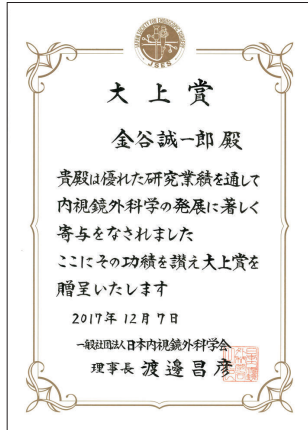
■ロボット支援下手術の詳細は、当院ホームページの「消化器外科」のページに掲載しています。  
[https://www.osaka-med.jrc.or.jp/department/s08.html#s08\\_2](https://www.osaka-med.jrc.or.jp/department/s08.html#s08_2)

## News 金谷誠一郎第二消化器外科部長 日本内視鏡外科学会「第10回大上賞」を受賞

金谷誠一郎第二消化器外科部長が、平成29年12月7日第30回日本内視鏡外科学会総会において、日本内視鏡外科学会の「大上賞」を受賞しました。この賞は、平成12年に急逝されたわが国における内視鏡外科手術の先駆者の一人である、大上正裕氏の功績を永く表彰するために設けられた賞です。毎年、内視鏡外科学の普及と発展に著しく功績のあった者一名に贈られるもので、日本の内視鏡外科学分野でもっとも栄誉ある賞です。



第二消化器外科部長  
金谷 誠一郎



## Event 読響ハートフルコンサート&クリスマスコンサートを開催しました



▲読響ハートフルコンサートの様子

11月18日(土)、読響ハートフルコンサートを開催しました。このコンサートは、公益財団法人正力厚生会と読売日本交響楽団が共同でがん患者さんのQOL(生活の質)向上への一環として、全国のがん診療連携拠点病院などで、弦楽四重奏を楽しんでもらうことを目的として開催されています。当日は、

モーツァルトなどのクラシック、ディズニー映画「ピノキオ」から「星に願いを」などが美しい音色で奏でられ、楽団の演奏を身近に聴くことができるまたとない機会です。来場者の皆さまには素敵な時間を過ごしていただきました。

また、12月17日(日)にはクリスマスコンサートを開催しました。相愛高校OG聖歌隊の皆さまによる合唱やベルの演奏と、当院薬剤部の畔柳薬剤師と木原薬剤師によるピアノとエレクトーンの演奏が披露されました。クリスマスにちなんだ曲が盛りだくさんで、ご来場者の皆さまには一足早いクリスマスプレゼントとなり、楽しいひとときを過ごしていただきました。



▲クリスマスコンサートの様子

## News 平成29年度「NHK海外たすけあい」(第35回) 募金へのご協力ありがとうございました

海外たすけあい募金は海外の紛争、災害、病気で苦しむ人々を支援することを目的に行われており、日赤の国際活動の多くが、このキャンペーンの寄付で実施されています。

当院では12月1日~25日まで院内各所へ募金箱を設置し、皆さまから総額65,350円もの心温まるご寄付をいただきました。募金にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。また今後とも赤十字活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 人事異動情報 (平成29年9月30日~平成30年1月1日付)

- 採用** (10月1日付) ●朴 実樹(脳神経外科・専攻医)  
(1月1日付) ●鼻岡 昇(消化器内科・医師) ●吉田 正太(脳神経外科・専攻医)  
●角 千里(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師)
- 退職** (9月30日付) ●邨田 裕子(産婦人科・医師) ●小原 次郎(脳神経外科・専攻医)  
●富原 光雄(整形外科・非常勤嘱託医師)  
(12月31日付) ●朴 実樹(脳神経外科・専攻医)  
●辻 賢太郎(消化器内科・非常勤嘱託医師)

## 編集後記

今年では平成30年です。平成に入ってから30年間で、医療の分野も医療機器やお薬などに、大きな変化がありました。ITも発達し、私たちの生活も便利になりましたが、変わらないものもたくさんあります。変化も大切ですが、時代を経ても変わらずに残り続けるものも大切です。本誌『びり〜ぶ』も読者の皆さまのおかげで、少しずつ変化しながらも発行し続けられています。

本年も『びり〜ぶ』をどうぞよろしくお願いいたします。(Y.T)

## Event キャロリングが行われました



▲1階正面玄関ホール

キャロリングは、キャンドルを持った大阪赤十字看護専門学校看護学生と当院の看護師の聖歌隊が聖歌を歌いながら病棟を回るイベントで、毎年開催されています。

12月22日(金)、病棟はやわらかなろうそくの明かりに包まれ、「ご入院中の患者さんにやすらぎとなぐさめを」との気持ちが込められた聖歌に、患者さんも聞き入っておられました。

イベントの最後には聖歌隊が1階正面玄関ホールにアーチを描いて列を作り、美しい歌声が院内に響きました。

## 病院のご案内

- 受付時間(月~金) (診療開始は午前8:45からです)  
初診/月曜日~金曜日 8:30~11:30 再診/月曜日~金曜日 8:00~11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日~1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)  
平日/14:00~19:00 休診日/10:00~12:00、14:00~19:00  
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00~19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。  
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は  
敷地内全面禁煙です  
当院は、敷地内全面禁煙を  
実施しています。  
ご理解とご協力をお願いします。

## 大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成30年1月発行

■お問い合わせ

TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>  
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

